

## クリスマスクッキーの飾りつけ

第18航空団広報局



暮れも近づいた12月27日の午後、ある米軍人家庭へ嘉手納基地周辺の中高生が招待されました。クリスマス 新年が近づくとアメリカの家庭ではジンジャーブレッドクッキーを作り、それを飾る慣わしがあります。シンプルな手作りクッキーに思い思いの模様を描く楽しみを、地元沖縄の子供たちにも体験してもらいたいという企画です。

北谷町、嘉手納町、読谷村から学生10名が英会話の練習にもなるということでこの企画に参加しました。訪問先は嘉手納基地の主要部隊第18航空団司令官宅で、出迎えたのはシンディ・ウィルズバック夫人とご主人の司令官ケン・ウィルズバック准将です。学生らに是非ウェルカム挨拶をしたいということで司令官は仕事を調整して自宅へ立ち寄っていました。そのほか副司令官夫人のシャーロット・ラップ夫人、最先任下士官夫人パット・デイビス夫人と子供たちも交流会にエプロン姿で参加しました。

沖縄の学生らは自己紹介から全て英語でのコミュニケーションで、少し緊張した面持ちでしたが、クッキーデコレーションのほか、クリスマスソックスにも文字入れをしたり、緊張のなかにもスマイルが少しづつみえてきました。クッキー作りも終え、シンディ夫人がホワイトハウスで勤務していた自身の職業体験を学生さんに語りました。

後日談として、学生らはもう少し英会話ができるだろうと自信もあったが言葉にならず、これから益々英語の勉強に励む気持ちになったという感想が寄せられました。

**Local students  
decorate cookies  
at 18 WG commander's home**



## 嘉手納CGOCから沖縄小児発達センターの子供達へクリスマスプレゼント



第18航空団広報局

米国空軍では、尉官将校会（CGOC : The Air Force Company Grade Officer's Council）と呼ばれる若い将校達の集まりがあり、基地内外での活動について定期的に会合をもち、ボランティア活動、地域貢献などを積極的に実施しています。その他、定期的にベテラン（退役軍人）の将校を招き、良きリーダーシップになる為の講演会なども主催しています。



(写真提供：尉官将校会)

\*プライバシー保護の為、写真の一部に処理加工をしてあります。

第18兵站即応中隊所属のエリクソン少尉によると、地域貢献活動に異なる職種の将校達が集まり貢献する事により、お互いがより強い絆で結ばれ、さらに優れた空軍チーム形成へと繋がるという利点もあると説明がありました。

昨年の12月に、嘉手納基地の尉官将校会を代表してエリクソン少尉が中心となり、クリスマスシーズンに地元の子供達にクリスマスの雰囲気を味わってもらおうと、沖縄市にある沖縄小児発達センターを訪問することを企画しました。エリクソン少尉は、「嘉手納尉官将校会より18名のボランティアが参加し、午前中に沖縄小児発達センターを訪ねました。三匹の子豚の絵本を読んだり、回転ティーカップに乗って競争した他、パラシュートゲームにも参加しました。ゴムボールとリロ&スティッチのシールを38名の子供達一人ひとりにプレゼントし、子供たち、スタッフのみなさん、ボランティアも大いに笑い、とても楽しい時間を過ごす事が出来ました。」とクリスマス訪問を振り返りました。

沖縄市の児童発達センターの育成主任である玉那霸さんに、今回のCGOCの訪問について伺った所、「子供達は嘉手納尉官将校会の皆さんのがることをとても楽しみにしていました。ボランティアの皆さんの子供達と遊んでいる時の笑顔や行動を見ていると、大人としてではなく、童心に返り、



子供と一緒に心から楽しんでいる様子が見て取れて、私達も嬉しくなりました。プレゼントをくださる事だけでなく、子供達と心から楽しんで一緒に過ごしている様子に感動しました。沖縄小児発達センターでは、クリスマス時期のみでなく、常にこういったボランティア活動を受け入れています。これからもこういった交流が継続される事を期待します。」と、これからとの交流への期待もこめて感想を話してくれました。

from CGOC





### 嘉手納外語塾生、インターンシップを通して学ぶ

嘉手納外語塾2年

比嘉青菜（第18航空団広報局インターンシップ生）

2010年11月16日から12月10日のあよそ1ヶ月間、嘉手納町立嘉手納外語塾の2年生6名は、インターナシップとして嘉手納基地内のシリング・コミュニティーセンター、第18兵站即応中隊、在沖艦隊活動司令部(海軍)広報局等の事務所で職場体験を行った。嘉手納外語塾は英語をはじめ、中国語、スペイン語、及び沖縄文化やコンピューター技術を学ぶ町運営の学校である。

# AONA HIGA

「インターンシップの目的は、外語塾生に米国社会を直に経験し、英語を使う職場環境で仕事をする経験を通して学んでもらう事です」と話すのは第18航空団広報局渉外部の普久原尚子部長。

今回、インターンシップ期間中、ある外語塾生の一人に職場での体験や感想などを聞いた。

「夢の中でも電話をとってるんです！」と笑いながら彼女は言った。彼女の名前は吉浜恵美、嘉手納外語塾の二年生だ。一ヶ月間の職場体験で嘉手納基地内のシリング・コミュニティセンターで働いている。

シリング・コミュニケーションセンターではフロントでの接客と電話応答が主だ。「特に電話の相手は、ペラペラ英語を喋つてくるので聞き取れないと。正直電話をとることが怖い」と言う。

しかし、彼女はこの仕事が楽しくないわけではない。「職場の雰囲気はとても明るくて人もみんなフレンドリーだからとても働きやすいです。いつもみんなでおしゃべりをして楽しいですよ」と語る。またシリング・コミュニティーセンターには毎日たくさんの人人が来る。その人達と触れ合えることにも彼女は楽しみを感じている。彼女は大の人好きなのだ。

「フロントで座っているとき、一人のお客さんが突然ペンをくれました…笑いながらどこかに行ってしまったんです。そして、また違う日に来て『このペンの調子どう？すごく良いでしょ！』って言ってハイタッチして帰っていました。そんな感じでお客さんもすごく面白い人達ばかりです」と笑いながら話してくれた。

シリング・コミュニティセンターでは、ツアーなどの申し込みを行い申込者が定員を超すと抽選になるという。「この一ヶ月間で一番嬉しかったことは、その当選者に電話をかけて『当選しましたよ！おめでとう！』という自分の英語で話す内容が完璧に相手に伝わったときです。あれは本当に嬉しかったです」と彼女は言った。

また、この職場体験の中で彼女には学んだ事がある。「お客様に『電話を貸して欲しい』と言われたんですが私は『電話を失くしたんだ』と言っていると勘違いして電話を探してお客様を待たせてしまった事があります。その時に曖昧に理解してはっきりさせなかつたことを後悔しました。だから確実に分からぬときは何度も聞き返すことが大事だなと思いました」と彼女は言つた。

職場体験をする前までは、どんな仕事に対してもあまり興味が無く、働きたいと思わなかつたが、職場体験をして働く事も楽しそうだなどと思えるようになつたそうだ。

「学校に戻ったら今までよりももっと積極的に英語を勉強したいです。特に単語を覚えることや学んだ言葉を口に出して使っていきたいです。将来は日本語も英語も上手に使えるようになってたくさんの人と関わる事のできる仕事につきたいです」と大きな笑顔で彼女は言った。

## 子供たちの クリスマスパーティー

第18航空団広報局



2010/12/11



(写真全て、嘉手納基地広報局：富良万亜子撮影)

2010/12/11

第390情報中隊が10月のハロウィーンのイベントに引き続き、地域への奉仕活動の一環として去る12月11日に浦添市在浦和母子寮のみなさんを中隊に勤務する軍人の子供たちのために催されたクリスマスパーティーに招待しました。パーティーの会場となった嘉手納基地内の第3礼拝堂には、ポットラック形式で持ち込まれたクリスマスの食事には欠かせない伝統的な七面鳥やハム料理とともに、中隊の皆さんの中の出身地の郷土料理もテーブル一杯にならべられました。

また、そのそばには子供たちに楽しんでもらあうと手作りコーナーが設けられ、アイスクリームのコーンを材料にしたクリスマスツリーや紅白のキャンドイーケインを使ったトナカイの顔作り、焼かれたクッキーのデコレーションなど中隊のボランティアの創意工夫が見られました。

食事の後、子供も大人も手作り作業に夢中になっていたり、話に花を咲かせていたところに、「ホー！ホー！ホー！」の声とともに赤い服に包まれたあの人人がやってきました。

最初は何が起きているのか少し戸惑っていた子供たちも、「あっ！ サンタクロースだ！」と目を輝やかせていました。そして、楽しみに待っていたサンタクロースからのプレゼントをもらう時間になると、子供たちはサンタクロースを囲んで座り、自分の名前が呼ばれるのを今か今かと待っていました。

やんちゃな子達が、サンタクロースの髪をひっぱてみたりと周りの大人をハラハラさせる場面もありましたが、皆楽しいひと時を過ごしました。

パーティ会場を出て帰る途中、嘉手納基地内の家々や通りに飾られたクリスマスイルミネーションを見ながら子供たちは感嘆の声をあげ、一足早いクリスマス気分を味わっていました。



## Christmas Party!

